

研究論文

## 学校におけるヘルスリテラシー研究の現状と課題 —システムティック・レビューを対象としたレビュー—

江藤 真美子<sup>\*1\*2</sup> ・ 鈴木 智恵子<sup>\*3</sup> ・ 山津 幸司<sup>\*4</sup>

### Current status and issues of health literacy research in schools: Review of systematic reviews

Mamiko ETO, Chieko SUZUKI, and Koji YAMATSU

【要約】本研究では、学校におけるヘルスリテラシーに関する研究のシステムティック・レビューを対象としたレビューを行った。その結果、外国語の論文が36編、日本語の論文が0編検出された。それを検討した結果、1) 10代未満の研究が少ないこと、2) 測定ツールを含めたヘルスリテラシー教育研究の必要性、3) 教育する側のヘルスリテラシーが重要である、4) メンタルヘルスリテラシーの小学校からの早期教育の必要性、5) メディアヘルスリテラシーからeヘルスリテラシーへの移行、が明らかになった。

【キーワード】メンタルヘルスリテラシー、メディアヘルスリテラシー、eヘルスリテラシー

#### 1. はじめに

##### (1) ヘルスリテラシーとは

ヘルスリテラシーという概念は、Nutbeam (2000) が、ヘルスリテラシーをヘルスプロモーションの成果と位置づけ、健康教育でヘルスリテラシーを育てることの重要性を示唆したことから注目を集めるようになった。ヘルスプロモーションの理念では、健康は与えられるものではなく、自らの力で獲得していくものであり、この実践力はヘルスリテラシーの育成と強く関係している。ヘルスリテラシーとは、ヘルスプロモーションの1つのコア概念であり (中山, 2014), 「健康情報を獲得し、理解し、評価し、活用するための知識、意欲、能力であり、それによって、日常生活におけるヘルスケア、疾病予防、ヘルスプロモーションについて判断・意思決定をし、生涯を通じて生活の質を維持・向上させることができるもの」(Kickbusch et al., 2013) と定義されている。

Nutbeam (2000) は、ヘルスリテラシーを3つの

レベルにわけ、機能的ヘルスリテラシー、相互作用のヘルスリテラシー、批判的ヘルスリテラシーと提唱している。機能的ヘルスリテラシーは問診票を記入し、医療的説明書を読むことができる能力、相互作用のヘルスリテラシーはエビデンスに基づいた情報等を得て理解するソーシャルスキルを含む能力、さらに高次の認知スキルで批判的に情報を分析し、管理することができる批判的ヘルスリテラシーにわけ、健康教育でヘルスリテラシーを育てることの重要性を示唆している (Nutbeam, 2000)。

ヘルスリテラシーの国際的な状況を比較した調査において、日本の得点が、他国に比べて低いことが報告されている (Nakayama et al., 2015)。欧州連合 (EU) 8カ国とアジア6カ国の中で最も低く25.3点だった。最も平均点が高いオランダ (37.1点) と比較すると、両国の平均値の差は10点以上

\*1 佐賀大学大学院医学系研究科・学生 \*2 福岡市立春住小学校 \*3 佐賀大学医学部看護学科 \*4 佐賀大学教育学部

開いていた。医療制度が進み、平均寿命も世界でトップレベルの日本において、なぜヘルスリテラシーが低いのかを探る必要があるだろう。

## (2) ヘルスリテラシーがなぜ必要か

ヘルスリテラシーの必要性は様々あるが、国際機関や日本の主要機関で必要性が強調されている。

2009年の国際連合経済社会理事会（ECOSOC）の閣僚宣言では、「我々は、ヘルスリテラシーが重要な健康成果を確実にするための重要な要素であることを強調し、この観点から、ヘルスリテラシーを促進するための適切な行動計画の策定を求め」という明確な行動命令を提示した（United Nations Economic and Social Council, 2009）。また、世界保健機関（WHO）における国連持続可能な開発のための2030アジェンダにおけるヘルスプロモーションに関する上海宣言（WHO, 2016）では、国家による市民のヘルスリテラシー強化が強調され、Sustainable Development Goals（SDGs；国連が採択した持続可能な開発目標, 2015）において、保健教育等でのヘルスリテラシー向上が、健康に関連する目標の達成を支援するとともに、健康格差の縮小の可能性を秘めていることを提示し、各国での取り組むべき政策を求めている。

厚生労働省（2015）においても「保健医療2035」提言書の中で、自ら受けるサービスを主体的に選択できるようにするため、学校教育、医療従事者、行政、特定非営利活動法人（NPO）及び保険者からの働きかけなどによってヘルスリテラシーを身に付けるための支援をすることを提言している。厚生労働省がヘルスリテラシーを重視している理由には、健康寿命の延伸という社会目標達成がある。そのためには、小児期から青年期での健康習慣の実践、健康情報にアクセスするといった基本的能力であるヘルスリテラシーを身につけることが重要だからである（厚生労働省, 2015）。発達研究の知見からも、効果的なヘルスリテラシーの発達は幼児期から始まることがわかっており（Okan et al., 2018）、学校は早期のヘルスリテラシー教育のための主要な場所である。

## (3) 学校におけるヘルスリテラシー教育

学校における健康教育の課題として、ヘルスリテラシーが育つ授業の必要性が指摘されている（山本・渡邊, 2011）。生涯にわたり幸福で豊かな生活を送るための『生きる力』のひとつとして、自分の健康について科学的・批判的に考え、選択・実践していくためのヘルスリテラシーの力を身につけていくことは非常に重要であり、日常生活で役に立つ「使える」知識であることを理解させることが大切となってくる。そのため、メタ認知能力、批判的能力、情報の正確さを判断する情報リテラシーなど、日常生活で使える活性化された知識・能力・スキルであるヘルスリテラシーの育成は健康教育での最重要課題となりつつある。

子どもから青年期は身体的、精神的、認知的な発達過程にあり、健康に関する行動やスキル・能力も発達途上にある。しかしながら、不登校や自殺等のメンタルヘルス、性行動の問題といった子どもたちを取り巻く健康問題に対し、情報を収集し、周囲の助けをうまく利用するなどといったヘルスリテラシーの能力は、重要な能力となる。

そのため、新たな公衆衛生戦略として、さまざまなヘルスリテラシーを基盤とした学校健康教育の指針が必要となってくることが予想される。今回の研究により、各国での取り組みや健康に関する各リテラシーについて分析し、これからの学校教育でのヘルスリテラシー研究に必要なことや課題を明らかにする。

## (4) 研究の目的

本研究の目的は、学校におけるヘルスリテラシーに関する研究のシステマティック・レビューを対象としたレビューを行い、最新動向を概観することであった。特に、ヘルスリテラシーの中でも、どのヘルスリテラシーの種類に注目がされているかを明らかにすることを目指す。

## (5) 用語の定義

- ・ヘルスリテラシーとは、健康情報を獲得、理解、評価、活用するための知識、意欲、能力であり、

それによって、日常生活におけるヘルスケア、疾病予防、ヘルスプロモーションについて判断・意思決定をし、生涯を通じて生活の質を維持・向上させることができるものとする (Kickbusch et al., 2013)。

- ・メンタルヘルスリテラシーとは、精神疾患についての知識を持ち、その病気の認知や管理、そして予防に役立つようなものことである (Jorn et al., 1977)。
- ・メディアヘルスリテラシーとは、メディアの中の健康関連コンテンツを識別し、その健康行動への影響を認識し、コンテンツを批判的に分析し、行動を通じて対応する意図を表明する能力に至るまでの連続体とする (Levin-Zamir et al., 2011)。
- ・eヘルスリテラシーとは、電子情報源から健康情報を探し、見つけ、理解し、評価し、得られた知識を健康問題の対処または解決に適用する能力として定義する (Norman et al., 2006)。
- ・フードヘルスリテラシーとは、ニーズを満たし、食物摂取量を決定するために食品を計画、管理、選択、準備、食べるために必要な相互に関連した知識、技能、行動の集合体と定義する (Vidgen et al., 2014)。

## 2. 研究方法

学校におけるヘルスリテラシーに関する研究のシステマティック・レビューを対象としたレビューを行った。研究対象は、2020年11月2日、Scopusを用い、“systematic-review and health-literacy and school”のキーワードで検索し、英語・ドイツ語・スペイン語を含めた36編が検出された。また、日本語の論文検索をCiNiiにて実施し、「システマティック・レビュー」「ヘルスリテラシー」「学校」で検索した結果、0編で日本語でのシステマティック・レビューは検出できなかった。

検索できた36編の概要を表にて整理し(添付資料)、分類を試みた。分類の方法としては、レビューの研究内容別、疾患別、研究目的別、出版年別、研究の対象者別で行った。

また、システマティック・レビューを学校教育での「ヘルスリテラシー」に関するものの中から、「ヘルスリテラシーの測定ツール(尺度)」と学校・地域で健康教育を行う教育者である「教師と保護者のヘルスリテラシー」、「メンタルヘルスリテラシー」、「メディアヘルスリテラシー」に分類した。またその中で、研究対象者が子どもから青年期までの学校で学ぶ時期の年齢を対象とする論文と成人で学校や地域での教育者を対象とした論文を抽出した。そして、レビューした論文の研究内容別に検討した。

## 3. 結果

学校におけるヘルスリテラシーに関する研究のシステマティック・レビューを行った結果、外国語の論文が36編、日本語は0編であった。

得られた36編を各レビューの研究内容別で分類すると、「ヘルスリテラシーの健康教育」に関する論文9編、「メンタルヘルスリテラシー」(メンタルヘルスや自殺、特定のゲームに関するヘルスリテラシーを含む)の論文14編、「食品(フード)」「食品・栄養」に関するヘルスリテラシーの論文3編、「メディアヘルスリテラシー」1編であった。その他は、「糖尿病」2編や「喘息」、「脳卒中」といった特定の疾患に関するヘルスリテラシー各1編となった。また、「知的・発達障害者」、「性行動」、「口腔衛生の格差」、「薬」、「乳幼児死亡」に関するヘルスリテラシーの論文各1編となった。

「ヘルスリテラシーの健康教育」に関する論文9編の中で、ヘルスリテラシーの測定ツールに関する論文は5編認められたのが特徴的であった。

疾患別に検討した結果、「糖尿病」2編と「喘息」、「知的・発達障害」と「精神疾患」各1編については、実際に疾患を持つ人を対象としていた。その他の31編については、疾患を持っていない人を対象に予防的な観点からの教育および研究であった。

研究目的別に検討した結果、プログラム等の健康教育への支援介入の効果について評価を行った文献が31編あり、問題の要因を特定する文献が5

編であった。支援介入の評価の中においては、支援介入プログラムの評価が 17 編、学校教育や疾患教育の支援介入が 6 編、支援介入プログラムでの尺度の評価・開発 5 編、定義理解、観察研究、疾患ケア各 1 編であった。

出版年別で検討すると、2020 年 9 編、2019 年 8 編、2018 年 5 編、2017 年 4 編、2016 年 3 編、2015 年 1 編、2014 年 2 編、2013 年 1 編、2012 年 2 編、2009 年 1 編という結果で、比較的新しいものが多いとの結果であった。

最後に、研究の対象者別で検討したところ、子どもから青年期といった学校などで学ぶ時期の年齢を調査対象とした論文は 21 編であった。次に、学校や地域での教育者である成人を対象とした論文は 5 編、学校自体を対象としたものは 3 編、精神疾患と糖尿病といった特定の疾患を持つ成人を対象としたものは 3 編、一般の成人を対象としたものは 2 編、全世代対象は 2 編、少数民族・特定の地域のリーダー対象が各 1 編であった。

#### 4. 考察

##### (1)ヘルスリテラシーの健康教育の研究について

研究内容別に検討した結果、「ヘルスリテラシーの健康教育」に関する論文は 9 編認められた。その中で、ヘルスリテラシーの測定ツールに関する論文が 5 編認められた。ヘルスリテラシーのプログラムやカリキュラムの評価についての論文が 5 編（1 編は両方の内容を取り扱っていた）認められた。そこから明らかになったことは、小児期から青年期の信頼性の高い測定ツールに関する研究が少ないことであった（Ludmilla et al., 2019; Guo et al., 2020; Guo et al., 2018a; Okan et al., 2018）。

小学校での測定ツールの使用に関しては、どの学年以上で実施するかといった使用年齢の問題がある。Guo et al. (2018a) のシステムティック・レビューの中で、特定された 29 編の研究のうち、ターゲット母集団は 7~25 歳であった。年齢差があるため、大きく 3 つのサブグループに分類し、7~12 歳の子ども (n = 5)、13~17 歳の青年 (n = 20)、18~25 歳の若年成人 (n = 4) とした。この結果

から、低学年でも理解可能な言語を使う必要はあるが、日本の小学校でも 1 年生から測定ツールの使用が可能であると考えられた。

測定ツールに関しては、学校で子どもと青年のヘルスリテラシーの測定を行うのに最適なツールは、8 項目のヘルスリテラシー評価ツール (HLAT-8) であることが明らかになった (Guo et al., 2018a)。

HLAT-8 が学校におけるヘルスリテラシー測定ツールとして適切である理由は以下の 4 点である。①家族や友人との関連での測定が項目にあること、Nutbeam の提唱しているヘルスリテラシーの 3 つの分類の性質を捉えた包括的ツールであること、8 項目で時間効率がいいこと、満足のいく構造的妥当性を示したことを挙げている。ただし、18 歳未満を対象とした研究が十分ではなく、読みやすさや測定特性の評価、収束的妥当性について検討の必要がある (Guo et al., 2018a)。

出版年別で検討すると、システムティック・レビューがはじめて報告されたのは 2009 年であり、2016 年以降は 29 編、それ以前は 7 編であった。学校におけるヘルスリテラシー研究は比較的新しい研究領域であると考えられた。

研究対象者別での検討結果から、10 歳未満の小学生の調査が不足していることが明らかとなった。Bröder et al. も 2017 年の論文で同じような指摘をしている。発達研究の知見からも、効果的なヘルスリテラシーの発達は幼児期から始まることがわかっており (Okan, et al. 2018)、学校は早期のヘルスリテラシー教育のための主要な場所である。小学校段階から、どのようなヘルスリテラシー教育が必要であるか、また、発達段階に合わせたヘルスリテラシー教育について研究していくことが今後の課題であるとする。

##### (2) 教師と保護者のヘルスリテラシー

研究対象者別で検討した結果、学校や地域での教育者である成人を対象とした論文は 5 編、学校での実施について対象としたものは 3 編あった。

教育、支援者側のヘルスリテラシープログラムについて 5 つの論文が確認できた。これらの論文

全ては自殺予防を含めたメンタルヘルスに関する研究であった。そのため、教師や保護者など教育・支援する側に、精神疾患への理解や子どもを助ける行動につなげるためにもヘルスリテラシーに関するトレーニングやプログラムの実施が必要とされている (Yamaguchi et al., 2020; Bröder et al., 2017)。

Sánchez et al. (in press) は、青少年のメンタルヘルス応急処置 (Y-MHFA : Youth Mental Health First Aid) が、教育者がメンタルヘルス問題や危機的状況にある青少年を効果的に支援するためのスキルと知識を提供し、学校での青少年のメンタルヘルスリテラシーとスキルの向上に役立ち、さらに青少年のメンタルヘルスに対する意識の変化をもたらしたと報告している。

学校は子どもが学び成長する場所であるが、社会的、感情的、行動的ニーズも育てなければならないと指摘されている (Adelman et al., 2000)。そのため、教師は、プログラム等を通して保護者や地域 (コミュニティ) と協力しながら、児童・生徒のウェルビーイングに向けて努力する必要がある、重要なキーパーソンとなる準備が必要である。

WHO (2020) によると、精神障害の半分が14歳より前にはじまることを示し、自殺は15~19歳の3番目に多い死因であることから、早い時期からのメンタルヘルスにおけるヘルスリテラシー教育を推進するとともに、身近な大人に予防や早期発見につなげる介入が必要とされている (Sánchez et al., in press)。Torok et al. (2019) はシステマティック・レビューの結果から、自殺に関するゲートキーパープログラムは、大人の意識と知識を高めて若者の自殺のリスクを減らすことのできる安全な戦略であることを示した。しかし同時に、実際に自殺に関するリテラシーの向上につながるものの、自殺への行動の変化はほとんどなかったことも報告しており、今後の課題となっている。

### (3) メンタルヘルスリテラシー研究について

研究内容別で検討した結果、メンタルヘルスについてのヘルスリテラシーに関する論文が多いことが特徴的であった。「メンタルヘルスリテラシー」

の論文が36編中14編認められた。Zuair et al. (in press) のメディアヘルスリテラシーの論文でも用いられていたため、メンタルヘルスリテラシーの論文は15編が確認できた。このことから、ヘルスリテラシー研究では、メンタルヘルスの分野への関心が高いことが推察された。

Casañas et al. (in press) によるさまざまな国で実施されている教育分野でのメンタルヘルスリテラシー介入の体系的なレビューでは、中学校におけるメンタルヘルスリテラシープログラムの実施と研究が多いことが報告されている。そして、これらの研究では、精神的健康に関する知識が増え、差別や偏見の行動が減るといった結果が得られ、感情的および社会的環境、学業成績の改善に貢献する可能性があるとしている。しかし、一方で小学校でのプログラムが1編のみで、小学校での研究が不足していることが指摘されていた。

メンタルヘルスリテラシーとは、Jorn et al. (1977) が提唱した概念が一般的に使用されており、精神疾患についての知識を持ち、その病気の認知や管理、そして予防に役立つようなものとされている。

メンタルヘルスに関する障害は、すでに子どもと青年期の間で一般的な疾患となっているため (WHO, 2020)、メンタルヘルスに関する健康教育は必要である。成人の精神障害の推定有病率は13.4%であり (Polanczyk et al., 2015)、2003年の研究からも自殺者における精神疾患の罹患率は91% (中央値)、気分障害は95% (中央値) であることから (加藤ら, 2012)、メンタルヘルスの問題は、社会的に大きな課題である。

日本においても、厚生労働省 (2017) の調べによると平成29年の年齢別死因において、15歳~39歳までの若者・壮年期の死因第一位は自殺となっており、早い段階でのメンタルヘルス教育の推進は大きな課題である。そのため、2022年度から高校の保健体育の教科書に精神疾患の記述が約40年ぶりに復活することが決まっているが、まだ高等学校のみにとどまっている。うつ病の発症年齢は13歳から14歳 (女性が多い) と日本での中学1・2年生頃の発症が報告されていて (Breslau et

al., 2017), 中学校からの教育でも遅い可能性がある。そのため、小・中学校の中でどのようにメンタルヘルスに関する教育を推進していくか、今後検討が必要となってくるだろう。Seedaket et al. (2020) によって、各国の学校におけるメンタルヘルスリテラシープログラムの介入効果について、メンタルヘルスリテラシー向上のための強力なツールになることが示されており、今後の早期教育が期待される。

#### (4) メディアヘルスリテラシーについて

今回、メディアリテラシーについての論文が 1 編認められた。思春期の子どものボディイメージへの影響に関するメディアヘルスリテラシーの教育についての介入研究を調査していたものであった。その他にも、健康教育プログラムの中でメディアの使用の必要性を訴えているもの (Seedaket et al., 2020), ターゲットグループである小児期から青年期の若者におけるメディアの重要な役割を鑑み、メディアやデジタル及びヘルスリテラシーの相互関係をより認識しておくことを提案している論文などがあった (Bröder et al., 2017)。出版年が新しいほどメディアやインターネットを使用した場合の教育効果 (Seedaket et al., 2020; Casañas et al., in press; Haidl et al., 2019) やメディア・オンラインゲームの影響についての研究 (Bada et al., 2019) が含まれており、ヘルスリテラシー研究の中でもデジタルや ICT に関連する記述が出てきていたことも特徴的であったといえる。

Levin-Zamir et al. (2011) によるとメディアヘルスリテラシーとは、メディアの中の健康関連コンテンツを識別し、その健康行動への影響を認識して、コンテンツを批判的に分析し、行動を通じて対応する意図を表明する能力に至るまでの連続体と定義されている。Norman et al. (2006) は、メディアヘルスリテラシーは e ヘルスリテラシーの前身と見なすことができると言及している。

e ヘルスリテラシーは、電子情報源から健康情報を探し、見つけて、理解、評価し、得られた知識を健康問題の対処または解決に適用する能力と

定義されている (Norman et al., 2006)。他のリテラシーと異なり、e ヘルスリテラシーは様々なリテラシースキルの側面を組み合わせることで適用され、その中心となるのは、伝統的なリテラシー、ヘルスリテラシー、情報リテラシー、科学リテラシー、メディアリテラシー、コンピューターリテラシーの 6 つのリテラシードメインを組み合わせている (Lily Model) とされている (Norman et al., 2006)。

今後の世界や日本における健康戦略の中に、WHO(2018)が推進する社会解決型の「デジタルヘルス介入」があり、2000 年前後より、WHO では「インターネットの保健衛生への活用」に注目したさまざまな取り組みを開始している。その後、モバイルを含む ICT 技術を活用することで、インターネットを含む情報や技術へのアクセスを提供する目標を含む SDGs の達成に貢献するコンセプト「eHealth」となっている。オンライン介入から情報 Web サイトまで、消費者向けの eHealth リソースには、テキストを読み、情報技術を使用し、これらのツールのコンテンツを評価して健康に関する決定を下す能力が必要である。eHealth が公衆の健康を改善する可能性を実現するためには、提供されるものと人々がアクセスできるものとの間のギャップを認識し、是正する必要があることが指摘されている (Norman et al., 2006)。そのため、それを使う側の e ヘルスリテラシーは必要不可欠なものとなる。

今後、e ヘルスリテラシーは、新しい通信技術へのアクセスとソーシャルメディアの使用だけではなく、健康のためのアプリやモバイル (mHealth) を使った健康管理など、世界が健康におけるデジタル技術の可能性を追求するこれからの時代に、必要不可欠な要素となってくるだろう (WHO, 2018)。デジタルヘルスは目覚ましいスピードで成長しており、Research2Guidance のデータによると、2017 年には約 325,000 のヘルスアプリが利用可能で、2016 年から 2017 年の間に 78,000 の新しいモバイルヘルスアプリケーションがリリースされていて、使用率は近い将来大幅に増加する可能性が非常に高い (McGinnis et al., 2017)。しかし、今はま



だ、そういったヘルスリテラシーの研究はシステムティック・レビューの中には見られなかった。2019年総務省はデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進を目指しており、今後は、こういったデジタルを活用するためのヘルスリテラシー研究も増加することが予想される。

## 6. まとめ

本研究では、学校におけるヘルスリテラシーに関する研究のシステムティック・レビューを対象としたレビューを行った。その結果、1) 10代未満の研究が少ないこと、2) 測定ツールを含めたヘルスリテラシー教育研究の必要性、3) 教育する側のヘルスリテラシーが重要である、4) メンタルヘルスリテラシーの小学校からの早期教育の必要性、5) メディアヘルスリテラシーからeヘルスリテラシーへの移行、などが明らかになった。

学校における早期のヘルスリテラシー教育は、健康格差の解消や健康寿命の延伸に貢献する可能性がある。また、これからの社会ではテクノロジーに対応したヘルスリテラシーを各個人でアレンジしていかなければならないと思われるので、ヘルスリテラシーの研究は、今後ますます求められていくことになるだろう。

## 引用文献

Adelman, H. S., & Taylor, L. (2000) Shaping the future of mental health in schools. *Psychology in the Schools*, 37(1), 49-60.

Bada, M., Clayton, R. (2019) Online suicide games: A form of digital: Self-harm or a myth? *Annual Review of CyberTherapy and Telemedicine*, 17, 25-30.

Breslau, J., Gilman, S.E., Stein, B.D., Ruder, T., Gmelin, T., Miller, E. (2017) Sex differences in recent first-onset depression in an epidemiological sample of adolescents. *Translational psychiatry*, 7(5), e1139.

Bröder, J., Okan, O., Bauer, U., Bruland, D., Schlupp, S., Bollweg, T.M., Saboga-Nunes, L., Bond, E., Sørensen, K., Bitzer, E.-M., Jordan, S., Domanska,

O., Firnges, C., Carvalho, G.S., Bittlingmayer, U.H., Levin-Zamir, D., Pelikan, J., Sahrai, D., Lenz, A., Wahl, P., Thomas, M., Kessler, F., Pinheiro, P. (2017) Health literacy in childhood and youth: A systematic review of definitions and models. *BMC Public Health*, 17 (1), 361.

Casañas, R., Mas-Expósito, L., Teixidó, M., Lalucat-Jo, L. (in press) Programas de alfabetización para la promoción de la salud mental en el ámbito escolar. *Informe SESPAS 2020, Gaceta Sanitaria*, 34(S1),39-47.

Guo, S., Armstrong, R., Waters, E., Sathish, T., Alif, S.M., Browne, G.R., Yu, X. (2018a) Quality of health literacy instruments used in children and adolescents: A systematic review. *BMJ Open*, 8(6), e020080.

Guo, S., Davis, E., Yu, X., Naccarella, L., Armstrong, R., Abel, T., Browne, G., Shi, Y. (2018b) Measuring functional, interactive and critical health literacy of Chinese secondary school students: reliable, valid and feasible? *Global Health Promotion*, 25(4), 6-14.

Guo, S., Yang, Y., Liu, F., Li, F. (2020) The awareness rate of mental health knowledge among Chinese adolescent: A systematic review and meta-analysis. *Medicine (United States)*, 99 (7), e19148.

Haidl, T.K., Seves, M., Eggers, S., Rostamzadeh, A., Genske, A., Jünger, S., Woopen, C., Jessen, F., Ruhrmann, S., Vogeley, K. (2019) Health literacy in clinical-high-risk individuals for psychosis: A systematic mixed-methods review. *Early Intervention in Psychiatry*, 13 (6), 1293-1309.

Jorm A. F, Korten A. E, Jacomb PA, Christensen H, Rodgers B, Pollitt P. (1997) "Mental health literacy": A survey of the public's ability to recognize mental disorders and their beliefs about the effectiveness of treatment. *Medical Journal of Australia*, 166, 182-186.

加藤進昌・神庭重信・笠井清登 編著 (2012) T E X T精神医学 改訂4版, 南山堂, 143頁.

Kickbusch, I., Pelican, J.M., Apfel, F. and Tsouros,

- A.D. (Eds.). (2013) The solid facts: Health literacy. [http://www.euro.who.int/\\_\\_data/assets/pdf\\_file/0008/190655/e96854.pdf](http://www.euro.who.int/__data/assets/pdf_file/0008/190655/e96854.pdf) (accessed 2015. 11. 1)
- 厚生労働省 (2017) 平成 29 年 (2017) 人口動態統計月報年計 (概数) の概況, <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/gppo/nengai17/dl/h7.pdf> (accessed 2020.1.14)
- 厚生労働省 (2015) 保健医療 2035 提言書, 23-26 頁.
- Levin-Zamir, D., Lemish, D., Gofin, R. (2011) Media Health Literacy (MHL): Development and measurement of the concept among adolescents. *Health Educ Res*, 26, 323-335.
- Levin-Zamir, D., Leung, A, Y, M., Sarity, D., Gillian, R. (2017) Health literacy in selected populations: Individuals, families, and communities from the international and cultural perspective, *Information Services & Use*, 37, 131-151. <https://content.iospress.com/articles/information-services-and-use/isu834> (accessed 2021.1.17)
- Ludmilla, F., Wikkeling-Scott, R. J., Yousef. A., Robert V. R. (2019) Health literacy research in the Eastern Mediterranean Region: an integrative review. *International Journal of Public Health*, 64, 523-533.
- McGinnis, J.M., Berwick, D.M., Daschle, T.A., Diaz, A., Fineberg, H.V., First, W.H., Gawande, A., Halfon, N., Mourey, R. (2017) Systems strategies for better health throughout the life course. In *Vital Directions for Health & Health Care*; Dzau, V.J., McClellan, M.B., McGinnis, J.M., Finkelstein, E.M., Eds.; National Academy of Medicine: Washington, DC, USA, pp. 43-69. (Research2Guidance. *mHealth App Economics 2017/2018. Current Status and Future Trends in Mobile Health*; Research2Guidance: Berlin, Germany, 2017.)
- Nakayama, K., et al. (2015) Comprehensive health literacy in Japan is lower than in Europe: a validated Japanese-language assessment of health literacy. *BMC Public Health*, 15, 505.
- 中山和弘 (2014) ヘルスリテラシーとヘルスプロモーション, 健康教育, 社会的決定要因, 日健教誌, 22(1), 76-87.
- Norman, C.D., Skinner, H.A. (2006) eHealth Literacy: Essential skills for consumer health in a networked world, *J Med Internet Res*, 8(2), e9p.
- Nutbeam, D. (2000) Health literacy as a public health goal: a challenge for contemporary health education and communication strategies into the 21st century. *Health Promotion International*, 15(3), 259-267.
- Okan, O., Lopes, E., Bollweg, T.M., Bröder, J., Messer, M., Bruland, D., Bond, E., Carvalho, G.S., Sørensen, K., Saboga-Nunes, L., Levin-Zamir, D., Sahrai, D., Bittlingmayer, U.H., Pelikan, J.M., Thomas, M., Bauer, U., Pinheiro, P. (2018) Generic health literacy measurement instruments for children and adolescents: A systematic review of the literature. *BMC Public Health*, 18 (1), 166.
- Polanczyk, G.V., Salum, G.A., Sugaya, L.S., Caye, A., Rohde, L.A. (2015) Annual research review: A meta-analysis of the worldwide prevalence of mental disorders in children and adolescents. *Journal of Child Psychology and Psychiatry and Allied Disciplines*, 56 (3), 345-365.
- Sánchez, A.M., Latimer, J.D., Scarimolo, K., von der Embse, N.P., Suldo, S.M., Salvatore, C.R. (in press) Youth Mental Health First Aid (Y-MHFA) Trainings for Educators: A Systematic Review. *School Mental Health*.
- Seedaket, S., Turnbull, N., Phajan, T., Wanchai, A. (2020) Improving mental health literacy in adolescents: systematic review of supporting intervention studies, *Tropical Medicine and International Health*, 25 (9), 1055-1064.
- Torok, M., Calear, A.L., Smart, A., Nicolopoulos, A., Wong, Q. (2019) Preventing adolescent suicide: A systematic review of the effectiveness and change mechanisms of suicide prevention gatekeeping training programs for teachers and parents. *Journal of Adolescence*, 73, 100-112.
- United Nations Economic and Social Council (ECO-



SOC) . MINISTERIAL DECLARATION –2009  
HIGH-LEVEL SEGMENT: Implementing the  
internationally agreed goals and commitments in  
regard to global public health.  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/kenkokoyoiku/22/1/22\\_76/\\_pdf/-char/en](https://www.jstage.jst.go.jp/article/kenkokoyoiku/22/1/22_76/_pdf/-char/en)(accessed2021.1.13)

Health literacy school-based interventions on  
adolescents' body image concerns, eating  
concerns, and thin-internalization attitudes: A  
systematic review and meta-analysis. *Health  
Communication*.

(2021年1月29日 受理)

United Nations (2015) Sustainable Development  
Goals (SDGs ; 国連が採択した持続可能な開発  
目標) , THE 17 GOALS. <https://sdgs.un.org/goals>

World Health Organization (2018) WHA71.7 Agenda  
item 12.4 “ Digital health ” , -  
[https://apps.who.int/gb/ebwha/pdf\\_files/WH  
A71/A71\\_R7-en.pdf](https://apps.who.int/gb/ebwha/pdf_files/WH/A71/A71_R7-en.pdf)(accessed2021.1.17)

World Health Organization (2020)New WHO  
guidelines on promoting mental health  
among adolescents,  
[https://www.who.int/news-room/fact-  
sheets/detail/adolescent-mental-  
health](https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/adolescent-mental-health)(accessed2021.1.11)

Yamaguchi, S., Foo, J.C., Nishida, A., Ogawa, S.,  
Togo, F., Sasaki, T. (2020) Mental health literacy  
programs for school teachers: A systematic review  
and narrative synthesis. *Early Intervention in  
Psychiatry*, 14 (1), 14-25.

山本浩二, 渡邊正樹 (2011) 日本の中学校健康教  
育における課題とヘルスリテラシーの必要性  
に関する一考察: 中学校新学習指導要領の実施  
に向けて. *東京学芸大学紀要 芸術・スポーツ  
科学系*, 63, 87-97.

Vidgen, H.A., Gallegos, D. (2014) Defining food  
literacy and its components. *Appetite*, 76, 50-59.

World Health Organization. (2016) Shanghai  
Declaration on promoting health in the  
2030 Agenda for Sustainable Development  
(持続可能な開発のための2030アジェンダに  
おける健康促進に関する上海宣言); The  
mandate for health literacy,  
[https://www.who.int/publications/i/item/WHO-  
NMH-PND-17.5](https://www.who.int/publications/i/item/WHO-NMH-PND-17.5)(accessed2021.1.28)

Zuair, A.A., Sopory, P. (in press) Effects of Media

【添付資料】本研究で検出された外国語のシステマティック・ビュー36編の一覧

No.	表題 (原文より著者が翻訳)	出版年	著者	目的	論文取得	対象	
						対象数	対象者属性
1	「青年期のメンタルヘルスリテラシーの改善：支援介入研究の系統的レビュー (レビュー)」	2020	Seedaket, S., Turnbull, N., Phajan, T., Wanchai, A.	青年期のMHLの改善に対する支援介入の効果を調査すること	有	ScienceDirect, Scopus, PubMed, Cochrane, CINAHLデータベースを検索した系統的文献レビュー (1107件の論文のうち7件をレビュー)	思春期 (10歳 - 19年)
2	「社会環境：スティグマと助けを求めることをよりよく理解するために関連する概念？」	2020	Speerforck, S., Schomerus, G.	個人的な価値観を含む社会的環境は、態度や医療提供に関する精神医学的研究に役立つ可能性のある手段 (有用なツール) であるのか？	有	PubMed, PsycINFO, Google Scholarで環境用語のさまざまな側面 (社会人口統計学, 価値観, 居住地, 民族性) と汚名を着せる態度および精神的ケアの提供との関連についての文献レビュー	成人
3	「知的障害および発達障害のある若年成人のための健康増進プログラムの採用設定, 提供状況, 介入技術および結果：システマティックレビュー」	2020	Maine, A., Brown, M. J., Ski, C. F., Thompson, D. R., Marsh, L., O'Leary, L.	知的および発達障害 (IDD) を持つ人々の健康増進プログラムの採用設定, 配信コンテキスト, 介入技術と結果について, これらの特性を統合して評価すること	有	IDDの青年および若者に対する健康的なライフスタイル介入に関する複数のデータベースから特定された研究の系統的レビュー	知的および発達障害をもつ若年成人
4	社会生態学的理論を使用して, カンボジアの思春期の少女と10~24歳の若い女性の危険な性行動に関連する要因を特定する: 系統的レビュー (レビュー)	2020	Rizvi, F., Williams, J., Maheen, H., Hoban, E.	PRISMA (システマティックレビューとメタアナリシスの優先報告項目) ガイドラインを採用した系統的文献レビューで, カンボジアの思春期の少女と10~24歳の若い女性の危険な性行動に関連する要因を特定する	有	1994年から2019年の間に発行された文献のPRISMA (システマティックレビューとメタアナリシスの優先報告項目) ガイドラインを採用した系統的文献レビュー	カンボジアの思春期の少女と若い女性 (10~24歳)
5	学校教師のためのメンタルヘルスリテラシープログラム: 系統的レビューと物語の統合 (レビュー)	2020	Yamaguchi, S., Foo, J. C., Nishida, A., Ogawa, S., Togo, F., Sasaki, T.	教師のためのメンタルヘルスリテラシープログラムの有効性についての系統的レビュー	無	PubMed, PsycINFO, CINAHL, ERIC, Web of Science, および含まれている研究を2018年9月に検索	教師
6	学校環境におけるメンタルヘルスの促進のためのリテラシープログラム。	2020	Casañas, R., Mas-Expósito, L., Teixido, M., Lalucat-Jo, L.	さまざまな国で実施されている教育分野でのメンタルヘルスリテラシー介入に関する体系的なレビューを実施し, 地域のメンタルヘルスリテラシープログラムを説明および評価する。	有	PubMed検索により, 初等および中等教育環境におけるメンタルヘルスリテラシー介入に関する実験的研究を特定。識別された245の参照のうち, 13の実験的研究をレビュー	初等・中学校
7	メディアヘルスリテラシーの学校ベースの介入が青年のボディイメージの懸念, 食事の懸念, および薄い内面化の態度に及ぼす影響: 系統的レビューとメタ分析	2020	Zuair, A. A., Sopory, P.	この体系的かつメタ分析的なレビューでは, 青少年の身体イメージに対する学校環境でのメディアヘルスリテラシー (MHL) 介入の影響を調査	無	16件のレビューで報告された21件の介入と対照を比較	青少年
8	教育者のための青少年メンタルヘルス応急処置 (Y-MHFA) トレーニング: 系統的レビュー	2020	Sánchez, A. M., Latimer, J. D., Scarimolo, K., von der Embse, N. P., Suldo, S. M., Salvatore, C. R.	青少年のメンタルヘルス応急処置 (Y-MHFA) は, 成人が困っている, または危機に瀕している青少年に援助を提供するためのツールを提供することを目的としている。このレビューでは, 学校の環境で実装された場合のY-MHFAに関連する結果を検討	有	PsychINFOやERICなどのオンラインデータベースと関連する参考文献の包括的な系統的レビューを通じて, 8つの関連する研究を特定	教育者および大学生
9	中国の青年におけるメンタルヘルス知識の認識率: 系統的レビューとメタ分析 (レビュー)	2020	Guo, S., Yang, Y., Liu, F., Li, F.	中国の全国メンタルヘルス作業計画 (2015-2020) によると, 2020年末までに, 青年期のメンタルヘルス知識の認識率は少なくとも80%までになるはずである。中国の若者のメンタルヘルス知識の認識率を評価して, 目標と現実の実際のギャップを理解し, 将来のメンタルヘルス推進計画の基礎を提供し, 関連文献のメタ分析を実施した	有	英語の2つの電子データベースと3つの中国語の電子データベースで関連する研究を検索 (中国の青年の意識率を分析するためにメタ分析を行った)	中国青年 (中学生と大学生)
10	精神病の臨床的リスクの高い個人のヘルスリテラシー: 体系的な混合法レビュー	2019	Haidl, T. K., Seves, M., Eggers, S., Rostamzadeh, A., Genske, A., Jünger, S., Woopen, C., Jessen, F., Ruhrmann, S., Vogeley, K.	現在まで, 精神病のリスクのある人におけるHLの役割は体系的に見直されていないため, さまざまな研究タイプを分析するために, 混合方法アプローチを使用して系統的レビューを実施	有	査読済みの出版物をPUBMED, Cochrane Library, PsycINFO, Web of Scienceで体系的に検索 (10587件の出版物が検出され, スクリーニング後, 15の定量的研究, 4つの定性的研究, および2つのレビューが含まれた)	精神病のリスクの高い個人
11	青年期の自殺の防止: 教師と保護者のための自殺防止ゲートキーピングトレーニングプログラムの有効性と変更メカニズムの系統的レビュー (レビュー)	2019	Torok, M., Caelear, A. L., Smart, A., Nicolopoulos, A., Wong, Q.	青年期の自殺を防ぐには, 危険にさらされている若者の特定を改善し, 適切な支援に結び付けることが必要であり, この研究の目的は, 危機が発生する前に介入できるように, リスクを認識して対応する能力を向上させるように設計された, 親と教師のための自殺予防ゲートキーパープログラムの有効性を調べることである。	有	学術データベースと参照リストで, 教師と保護者が関与し, ジャーナルの開始から2018年5月までの間に若者の自殺を防ぐことを目的としたゲートキーパートレーニングプログラムを検索 (。自殺リテラシーについて直接報告する情報 (知識, 自信, 態度) および/またはゲートキーパーの行動 (識別, 紹介) が抽出され, 定性的な統合を行った)	教師と保護者
12	2型糖尿病患者における限られたヘルスリテラシーの有病率: 系統的レビュー (記事)	2019	Abdullah, A., Liew, S. M., Salim, H., Ng, C. J., Chinna, K.	ヘルスリテラシー (HL) スキルは, 2型糖尿病 (T2DM) 患者の自己管理と共有意思決定を可能にするために不可欠であり, 各国の2型糖尿病患者における限られたHLの負担と, それに影響を与える要因を明らかにする	有	PRISMAガイドラインに従って系統的レビューを実施。研究プロトコルはPROSPERO (CRD42017056150) に登録。MEDLINE, EMBASE, PsycINFO, CINAHL, およびERICで, 2017年1月までに公開された論文を検索 (2人のレビュアが研究の適格性と質を評価し, データを抽出)	2型糖尿病患者

13	東地中海地域におけるヘルシテラシー研究：統合的レビュー	2019	Wikkelling-Scott, L. F., Ajja, R. J. Y., Rikard, R. V.	この統合レビューでは、東地中海地域 (EMR) のヘルシテラシー研究を調査し、(1) ヘルシテラシーのレベルを測定するために使用される評価とスクリーニングツール、および(2) ヘルシテラシー研究の焦点、方法、および調査結果について説明する	有	1950年から2017年までのオンラインデータベースの体系的な検索を通じて、ProQuest Middle East and Africa, MEDLINE, PubMed, PsycINFO, Cumulative Index to Nursing and Allied HealthLiterature (CINAHL), AcademicOneFile を含む合計246件を特定 (最終サンプルには、49のフルテキスト論文を含む)	東地中海地域の成人
14	コミュニティおよび学校ベースのプログラムを通じた若い男性の幸福の開発：系統的レビュー (レビュー)	2019	Gwyther, K., Swann, R., Casey, K., Purcell, R., Rice, S. M.	少年および若い男性は、自己スティグマ、偶発的な死亡または自殺の割合が高く、少年と若い男性の集団の間で助けを求める率とヘルシテラシーが低いことによって証明されている。すべての若者 (少年と若い男性を含む) の幸福と教育成果の改善への関心が高まる中、この系統的レビューは、12~25歳の若い男性に直接関連するプログラムの特徴と成果に特に焦点を当ててコミュニティおよび学校ベースのプログラムを評価することを目的としている。	有	Medline, EMBASE, PsycInfo, ERIC, およびERAD5つのデータベースで検索 (若い男性の一般的またはリスクのあるサンプルの中で、介入またはプログラムを評価し、40の研究で心理的、心理社会的、男らしさ、または教育的成果を測定した論文を含む)	12~25歳の若い男性
15	ミュージシャンのための健康教育のリテラシーとアクセシビリティ：グローバルなアプローチ：世界的な大学ネットワークプロジェクトからの報告 (記事)	2019	Baadjou, V. A., Wijsman, S. I., Ginsborg, J., Guptill, C., De Lisle, R., Rennie-Salonen, B., Visentin, P., Ackermann, B. J.	目標は、ミュージシャンのための健康教育への柔軟でアクセス可能なアプローチを開発するためのマルチストランド研究プログラムを設計し、それによって彼らのヘルシテラシーを向上させること	無	ワールドワイドユニバーシティネットワークが資金提供し、多文化、国際的、学際的な共同研究チームを形成。	音楽大大学院に通う
16	中等学校における食品リテラシープログラム：系統的文献レビューと定量的および定性的証拠の統合	2019	Bailey, C. J., Drummond, M. J., Ward, P. R.	今回のレビューは、フードリテラシーに関する文献を総合的に検討することを目的としている	有	システマティックレビューでは、5つの電子データベース (レビューのために選択された研究は、16カ国からのもの)	中等学校
17	オンライン自殺ゲーム：デジタルの一形態：自傷行為が神話か？ (論文)	2019	Bada, M., Clayton, R.	若者への注意喚起や情報キャンペーンの実施による報道と保護者を対象に、これらのオンライン自殺ゲームに関連するリスクについて考察した。また、本稿では「チャレンジ文化」というオンライン現象とその自傷行為との関連性に焦点を当てて ①ソーシャルメディアでのチャレンジ文化、②若者が興味を持つ行動の把握 ③シロナガスクジラチャレンジや他のゲームにおける当局の実践を探り、警告と啓発プログラムを提供する。	有	教師、児童保護の専門家、NGOにインタビューし、2015年から2019年までの過去のニュースレポートの系統的レビューを実施し、警察やその他の当局のWebサイトを検索して、関連する警告リリースを特定	全世代
18	中国の中等学校の学生の機能的、インタラクティブ、そして批判的なヘルシテラシーの測定：信頼性があり、有効で、実行可能か？ (論文)	2018	Guo, S., Davis, E., Yu, X., Naccarella, L., Armstrong, R., Abel, T., Browne, G., Shi, Y.	この研究は、中国の青年のヘルシテラシーを測定し、各ドメインのステータスと決定要因を調べるために、スキルベースの3ドメイン (機能的、インタラクティブ、クリティカル) な手段を採用することを目的としている。(合計650人の生徒が採用され、社会人口統計、自己効力感、社会的支援、学校環境、コミュニティ環境、ヘルシテラシーを評価する自己記入式のアンケートに回答)	有	系統的レビューを行い、8項目のヘルシテラシー評価ツール (HLAT-8) が選択され、英語から中国語 (c-HLAT-8) に翻訳された。翻訳プロセスに続いて、中国の北京にある4つの中学校で横断研究が実施	7~9年生の生徒
19	栄養表示の理解と使用に対する教育的介入の効果：系統的レビュー (レビュー)	2018	Moore, S. G., Donnelly, J. K., Jones, S., Cade, J. E.	教育プログラムが栄養表示の理解と使用を改善できるかどうかを評価することを目的としている。	有	データベース検索を実行して、理解または使用の側面を測定する結果を伴う栄養表示に関する教育を提供した介入を特定 (9件のランダム化研究と8件のコホート研究を含む、合計17件の研究がレビューのために選択)	学齢期の子供、高齢者、および教育セッションやWebベースの教育を含むさまざまな介入タイプの糖尿病患者
20	子供と青年に使用されるヘルシテラシー機器の品質：系統的レビュー (レビュー)	2018	Guo, S., Armstrong, R., Waters, E., Sathish, T., Alif, S. M., Browne, G. R., Yu, X.	子供と青年のヘルシテラシーは過去10年間で勢いを増しているが、特にヘルシテラシーの測定については、まだ十分に研究されていない分野である。この研究は、子供と青年に使用されるヘルシテラシー機器 (ツール) の品質を調査し、フィールドでの使用に最適な機器を特定することを目的としている。	有	Medline, PubMed, Embaseで検索し、コクラン・ハンドブックに概説されているシステマティックレビューの方法で実施。レビューは2つの期間に渡って行われた (1974年と2014年5月16日 (第1期) と2014年5月17日から2018年1月31日までの期間 (第2期))	6~24歳の子供および青年。
21	オーストラリアにおける学校のヘルシテラシーの実施：系統的レビュー	2018	Peralta, L. R., Rowling, L.	この論文は、ヘルシテラシーの学校ベースのプログラムを計画、実装、評価し、現在のオーストラリアの学校ベースのヘルシテラシープログラムがこれらのガイドラインを満たしているかどうかを判断するための証拠に基づいたフレームワークを示す。	nasi	PubMed, MEDLINE, PsycINFO, ERIC, ScienceDirect, およびA + Educationデータベースの系統的レビューが行われた。(2010年から2017年2月の間にオンラインまたは印刷物で公開された記事を含む)	学校
22	子供と青年のための一般的なヘルシテラシー測定機器：文献の系統的レビュー (レビュー)	2018	Okan, O., Lopes, E., Bollweg, T. M., Bröder, J., Messer, M., Bruiland, D., Bond, E., Carvalho, G. S., Sorensen, K., Saboga-Nunes, L., Levin-Zamir, D., Sahrai, D., Bittlingmayer, U. H., Pelikan, J. M., Thomas, M., Bauer, U., Pinheiro, P.	現在利用可能な一般的な子供および青年期のヘルシテラシー測定機器の分野を体系的にレビューすること	無	1990年1月から2015年7月の間に発行された18歳以下の子供と青年を対象とした文献について、5つのデータベース (PubMed, CINAHL, PsycNET, ERIC, FIS) で体系的な文献検索を行った	18歳以下の子供と青年を対象とした文献
23	個人の健康と公衆衛生の成果を促進する上での健康教育とヘルシテラシーの間の二律背反への取り組み (記事)	2017	Belcastro, P. A., Ramsaroop-Hansen, H.	ヘルシテラシーと健康行動および健康状態の結果に関する実証的研究を評価するために、文献をレビューした	有	ヘルシテラシーと健康行動および健康状態の結果に関する実証的研究を評価するために、文献をレビュー	初等・中等・高等学校
24	イランの小学生の食品と栄養リテラシー (FNLIT) を測定するための尺度の開発と検証 (記事)	2017	Doustmohammadian, A., Omidvar, N., Keshavarz-Mohammadi, N., Abdollahi, M., Amini, M., Eini-Zinab, H.	テヘラン市の小学生の食物と栄養のリテラシーを評価するための有効で信頼できる質問票を開発すること	有	研究は3つのフェーズで実施。Food and Nutrition Literacy (FNLIT) アンケートを作成するために、包括的な文献レビューと定性的研究が最初に実行され、食品と栄養のリテラシーの側面とその構成要素が特定された。質問票の内容とフェイスの妥当性は、専門家と学生によって評価された。第2段階では、スケールの構成概念妥当性は、説明的因子分析 (EFA) および確認的因子分析 (CFA) を使用して評価された。最後のフェーズ (確認フェーズ) では、400人の学生に対してアンケートで最終バージョンが評価された。	小学生

25	小児期および青年期のヘルスリテラシー：定義とモデルの系統的レビュー	2017	Bröder, J., Okan, O., Bauer, U., Bruland, D., Schlupp, S., Bollweg, T.M., Saboga-Nunes, L., Bond, E., Sørensen, K., Bitzer, E.-M., Jordan, S., Domanska, O., Firnges, C., Carvalho, G.S., Bittlingmayer, U.H., Levin-Zamir, D., Pelikan, J., Sahrai, D., Lenz, A., Wahl, P., Thomas, M., Kessl, F., Pinheiro, P.	小児期および青年期のヘルスリテラシーに関する現在の理解を調査し、利用可能なモデルが子供や若者の固有のニーズと特徴をどの程度捉えているかを理解する。	有	2015年5月から11月の間に、PubMed, 教育資源情報センター (ERIC), 看護および関連医療文献の累積インデックス (CINAHL), PsycINFO, Web of Science, 英語, FISBildungを含む6つの書誌データベースが検索された。18歳以下の子供と若者のために利用可能な一般的なヘルスリテラシーの定義とモデルの系統的レビューは、レビューの高品質で透明性のある報告を確実にするための系統的レビューとメタアナリシスのための優先報告項目 (PRISMA) ガイドラインに従って実施。	小児期および青年期 (18歳以下)
26	喘息管理：職務の割り当て (レビュー)	2017	Madonia, G., Madonia, U.	喘息のケアには、喘息の診断と評価の方法を理解する必要があり、この研究の目的は、これらの問題を克服するために世界中で行われた取り組みに関するさまざまな経験を分析および議論し、その結果についてコメントし、呼吸器内科医の中心的な役割を持つ最良の管理について証拠を強調することである。	無	「喘息管理」「喘息ケア」「喘息プライマリケア」「喘息薬剤師」に関するすべての関連研究の広範なMEDLINE検索を行った	喘息の子ども
27	米国の若者の間で普遍的な学校ベースのメンタルヘルス意識向上プログラムの有効性：系統的レビュー	2016	Salerno, J.P.	米国の幼稚園から高校までの学校に在籍する生徒、特に健康格差に弱い少数派のメンタルヘルス関連の結果を改善することを目的とし、普遍的なメンタルヘルス意識の介入に関する文献をレビューすること	無	PsycINFO, Cochrane Library, PUBMED, および関連記事の参照リストで、米国の幼稚園から高校までの学校ベースのメンタルヘルス意識向上介入を検索 (レビューの一部として合計15の研究が選択された)	幼稚園児から高校生
28	健康増進のための学校ベースの介入と発展途上国におけるそれらの影響について何が知られていますか？文献のスクーピングレビュー	2016	Mukamana, O., Johri, M.	学校は、主に学生のヘルスリテラシー、行動、学業成績を向上させることにより、健康増進において重要な役割を果たす。健康増進のための学校ベースの介入と発展途上国におけるそれらの影響に焦点を当てた文献のスクーピングレビューを実施 (スキルと健康行動、および学校、家族、コミュニティレベルでの社会的および物理的環境などの環境決定要因を対象)	無	主に学校に通う子どもまたは青年を対象とした研究の文献をレビュー。(一次研究または系統的レビュー)	学校に通う子どもまたは青年
29	ナイジェリアの学校のメンタルヘルスプログラムに向けて：系統的レビューにより、状況に応じた文化的に微妙な研究の必要性が明らかになった	2016	Atilola, O., Ola, B.	この研究の目的は、異文化精神医学のレンズを通して、ナイジェリアの学校ベースのメンタルヘルスプログラムに関連する現在あるすべての疫学研究とニーズアセスメントを批判的に調べること	有	MEDLINE, Science Direct, PsychInfo, Google Scholar, およびAJOLデータベースから入手できる関連調査の系統的レビュー	学校
30	脳卒中の国際ジャーナル「子供の脳卒中の準備：知識を行動意図に変換する：系統的レビューとメタ分析 (レビュー)」	2015	Ottawa, C., Sposato, L.A., Nabhouh, F., Saposnik, G., on behalf of the Stroke Outcomes Research Canada (SORCan - www.sorcan.ca)	系統的レビューとメタアナリシスを実施して、子供を対象とした教育的介入が脳卒中の知識を向上させ、行動の変化につながるかどうかを調査	有	2000年1月から2014年12月の間にOvid, PubMed, Embaseを検索	脳卒中の教育的介入を受けた6~15歳の子ども
31	親の社会経済的地位と家庭環境の特徴が子供の口腔衛生関連の生活の質に与える影響の系統的レビュー (レビュー)	2014	Kumar, S., Kroon, J., Lalloo, R.	文献の系統的レビューを実施して、親の社会経済的地位 (SES) と家庭環境が子供の口腔衛生関連の生活の質 (OHRQoL) に及ぼす影響を評価すること	有	2013年8月に、PubMed, OVID経由のMedline, EBSCO経由のCINAHL Plus, およびCochraneデータベースを使用して体系的な検索が行われた	子ども
32	少数民族グループが効果的な糖尿病治療サービスにアクセスすることを妨げる文化的障壁：観察研究の系統的レビュー	2014	Zeh, P., Sandhu, H.K., Cannaby, A.M., Sturt, J.A.	観察研究の系統的レビューでケアの改善の基礎として文化的障壁を特定し、調査することを目的としている。	有	2011年9月までに発行された論文は、4つのデータベース (Medline, CINAHL, Cochrane, DARE), 2つのNational Health Serviceスペシャリストライブラリ (糖尿病, Ethnicity and Health), Warwick Medical Schoolの出版物および参照リストから取得 (2人の査読者が独立して論文の選択と評価を行い、合計316件の研究が検索され、そのうち22件がレビューされ、研究の不均一性のために、ナラティブ分析が行われた)	少数民族
33	知識、態度に取り組み、若者の間で求める手助けをするための学校のメンタルヘルスリテラシープログラムの有効性 (レビュー)	2013	Wei, Y., Hayden, J.A., Kutcher, S., Zymunt, A., McGrath, P.	学校のメンタルヘルスリテラシープログラムの有効性について系統的レビューを実施し、知識を高め、汚名を着せる態度を減らし、若者 (12~25歳) の助けを求める行動を改善する。	有	PubMed, PsycINFO, Cochrane Library, CINAHL, ERICの灰色文献 (grey literature), および含まれている研究の参照リストを独自に検索した	12~25歳の若者
34	台湾での正しい薬の使用のコア能力を開発することによるヘルスリテラシーの強化	2012	Chi, H.-Y., Chang, J.-C., Yeh, M.-K., Chen, C.-F., Kang, J.-J., Ting, H.-W.	台湾では、文献調査と情報収集、フォーカスグループと専門家会議によるコア能力の議論と開発、51校でのコア能力の教育活動の普及、評価調査という段階を経て、正しい薬の使用におけるコア能力が開発された。4本の論文を抄録し、フォーカスグループでの投票の参考とする (正しい薬の使用のコア能力に関する評価調査)	有	44本の論文を抄録	444人の教師と4035人の生徒
35	インドの乳幼児死亡率：複雑な状況 (レビュー)	2012	Ghosh, R.	インドの新生児と乳幼児死亡率に関する記事を妊娠、出産、産後の3つの重要な段階でレビューし、新生児と乳幼児死亡率に関連する危険因子を明らかにする	無	インドの新生児と乳幼児死亡率に関する記事は、PubMed / MEDLINEからアクセスされ、新生児と乳幼児死亡率に関連する危険因子は、妊娠、出産、産後の3つの重要な段階でレビューされた。	地域のリーダー
36	エビデンスに基づくメンタルヘルスケアをサービスユーザーに伝える	2009	Dadich, A.	既存および潜在的なサービスユーザーの間で予防的メンタルヘルスケアを通知するために、このレビューは根拠を伝えるための効果的な方法を特定する	無	系統的レビューにより、検索条件を満たす14の出版物が見つかった。	患者・家族・介護者